

## 「サンネットワークコンファレンス」に2005年のテクノロジーを見た Linuxのデスクトップ新戦略と データセンターアーキテクチャーを発表

サン・マイクロシステムズは去る9月18日から9月20日の3日間、サンフランシスコのモスコニセンターで『サンネットワーク2002コンファレンス』を開催した。サン自身による大規模なプライベートコンファレンスは、1995年に開催された『サンワールドエキスポ』以来7年ぶりだという。このタイミングでのプライベートコンファレンス開催の裏には、長く続く景気低迷による業績不振を払拭すべく、サンの市場における優位性や技術開発力などを誇示する意味があったのかもしれない。このコンファレンス会場でサンはいくつかの重要な発表を行った。

初日の基調講演は会長兼社長兼CEOのスコット・マクネリー氏の登場によって幕が開けた。マクネリー氏は世界的な不況やIT市場の低迷の中でもサンは研究開発費を削っておらず、また59億ドルのキャッシュを使って技術力のある企業の買収を積極的に行うことを強調していた。また、氏は「チョイス」「イノベーション」「バリュー」というキーワードを掲げ、サンの今後の戦略について解説を加えた。

チョイス、すなわち「選択」は、同社のオ

ープンな標準プラットフォーム戦略によって顧客はサン1社の製品を選ぶのではなく、他社の製品を選ぶ、あるいは他社の製品を混在させることが可能だと語った。

また、イノベーションについては、創業以来サンは革新的な技術を生み、この会場で発表される「N1」もその一例であると述べた。こういったサンの活動が顧客にとって大きなバリューを与えているとして、最後にサンのLinuxのデスクトップ新戦略についてマクネリー氏は触れた。

### Linux デスクトップの意味とは

このLinuxのデスクトップ戦略についての詳細は、エグゼクティブバイスプレジデントのジョナサン・シュワルツ氏によって明らかにされた。

これは『サン・エンタープライズデスクトップ』と呼ぶインテルアーキテクチャーのLinuxクライアント製品をサンのブランドとして市場に投入するというものだ。しかし単純なLinuxベースのPCではなく、個人認証のためのJavaカードリーダーに加え、マイ

December 2002

注目ニュースや新製品  
話題のサービスをまるごと掲載

News eye ..... p222

Service & Product News ..... p230

Service & Product Pick Up ..... p234

- ハードウェア
- ソフトウェア
- サービス
- キャンペーン・告知
- その他



基調講演に表れたスコット・マクネリー氏(左)とジョナサン・シュワルツ氏(右上)、スティーブ・マッケイ氏(中下)、セキュリティ戦略を語るチーフセキュリティオフィサーのホワイトフィールド・ディフィー氏(右下)は暗号の大家として有名。



コンファレンスの会場の様子。「他社が2005年に「創る」テクノロジーが見られる」とアピール(左上)、SunRay(中上)やサンの1号機(中下)も展示されていた。サンのロゴを刺青風にペイントしてくれるサービスもあった(右上下)。

クrosoftオフィス互換のOpenOffice.orgやウェブブラウザのMozilla、電子メールソフトのEvolution、デスクトップ環境を構築するGNOMEといったオープンソースのソフトウェアがバンドルされる。そして重要なのは「エンタープライズデスクトップ」の名が示すとおり、おもに教育機関、企業、政府などが一括導入するクライアント製品として、コールセンターや銀行などの定型ワークをこなすユーザーを対象にしている。基調講演後の記者会見でも、これは「あなたたちのような人(ジャーナリスト)が使うものではなく、定型のアプリケーションを使うだけでいいユーザーのための製品」ということをシュワルツ氏は強調していた。

似たようなクライアント製品として同社はSunRayというターミナル機を出荷している。SunRayは画面を表示する機能のみを内部に持ち、キーボードとマウスと個人認証用のJavaカードリーダーが備え付けられたクライアントで、Javaカードを差し込むことで各個人ごとにカスタマイズされたサーバー側のメールやウェブブラウザが使えるようになる。エンタープライズデスクトップの位置づけはこの高機能版ともとれる。現に、サーバー側にあるポータルサーバーなどのSun ONE製品と連携することが示唆されている。

サンによればこの製品の導入によって企業は大幅にコストをダウンできるとし、ウィンドウズベースのクライアントを導入した場合の30パーセントしかコストはかからないとしている。出荷については2003年の第一四半期が予定されている。

シュワルツ氏は最後に「Mad Hatter」と呼ぶプロジェクトによってこの新しいソリューションの開発が進められていることを明らかにした。

### データセンターがコンピュータに

翌2日目にはバイスプレジデントのステイブ・マッケイ氏が基調講演の壇上に上った。マッケイ氏は次世代のデータセンター構想「N1」のロードマップを明らかにした。N1についての発表は以前にもなされていたが、詳細なロードマップについての発表はこのコンファレンスが初となる。

N1はデータセンターの構築から運用までを一括して行えるアーキテクチャーで、データセンター内のサーバーやストレージ、ネットワーク機器、ソフトウェアを統合的に扱えるようにするものだ。N1が目指しているのは、データセンターを1つの大きなコンピュータに見立て、その中で動くサーバーやストレージ、ネットワーク機器をそのコンピ

ュータの部品として扱うようにすることにある。いままではサーバーのボックス単位でデータセンター内に設置された機器が管理されていたが、この場合、サーバーの稼働率が非常に低かったのだという。N1でデータセンターを包括的に管理すれば、効率よく必要ときに必要なリソースを使えるようになる。

N1は3段階のフェーズに分けられて最終的なアーキテクチャーが実現される。まず第1段階として「バーチャライゼーション」というサーバーやストレージなどの機器をリソースとして仮想化するためのフェーズが2002年内に実現する。続いて、仮想化されたリソースをデータセンターで提供するサービス(たとえばeコマースなど)に応じて選び出せるようにする「プロビジョン」のフェーズが2003年中に実現する。そして最後にビジネスポリシーによってアプリケーションやリソースを管理できるようにする「ポリシーオートメーション」のフェーズが2004年に実現する。

以上がおもだった発表だったが、サンネットワークコンファレンスを見る限り、株価が低かろうとサンのイノベーションは失われていない。ここで発表された技術が業界にインパクトを与えるのはこれからだ。



(写真左)会場は、約30万人の人出で賑わった。(写真右)米マイクロソフトのバイスプレジデント古川氏は、今後の10年を変える製品が、今年末、そして来年頭にはマイクロソフトから続々登場すると語った。

## WPC EXPO 2002開催レポート タブレットPCとデジタル家電が “次の10年”を激変させる予感

### 「ウィンドウズXPメディアセンターエディション」日本語版登場

「ブロードバンド時代 - コピキタス・ネット社会を拓く」というテーマのもと、アジア最大のデジタル総合展「WPC EXPO」が、10月16日から4日間、約30万人の来場者を迎えて、東京ビックサイトで開催された。

初日に基調講演を行ったのは、米マイクロソフトのバイスプレジデント古川享氏。彼は今後起こるであろう“激動の10年間”に備えて、マイクロソフトがどのようなデバイス、ソフト、そしてビジョンを持っているかを語った。マイクロソフトが用意するのは、具体的には新型デバイス「タブレットPC」、これまでMiraデバイスと呼ばれていた遠隔操作作用の端末「Smart Displays」、そして今回初めて日本語版が登場した「ウィンドウズXPメディアセンターエディション」だ。古川氏は壇上にこの3つの製品のそれぞれの担当者と呼び、その機能や特徴などを詳しく解説していた。

まず、壇上に上がったのが「タブレットPC」担当のバイスプレジデント、アレックス・ローブ氏。彼女は「タブレットPCは手書きの表現ができるので、パソコンのデータに自分の感情を込めることができ、その

感情をコミュニケーションを取りたい相手に伝えることもできる」と言い、「タブレットPC」が今後、パソコンを使った仕事のスタイルを大きく変えると明言した。次に「Smart Displays」担当のシニアディレクター、キース・ホワイト氏が登場。これまで開発コードMiraと呼ばれていた、ウィンドウズCE.NET搭載のモニターデバイスの正式名を「Smart Displays」にしたと発表。この端末は、無線でパソコンに接続し、リモートデスクトップをベースにした技術で、離れたところからそのパソコンを操作するもので、たとえばイレの中にも、リビングにあるパソコン内のエンターテインメントコンテンツなどを楽しむことができるというものだ。

最後に、マイクロソフトのホームネットワ

ーク構想、ehome担当のバイスプレジデント、マイク・タトゥンギ氏が登場。北米、韓国で年末に出荷される予定のOS「ウィンドウズXPメディアセンターエディション」の日本語版が公開された。日本での「メディアセンターエディション」の出荷は2003年頭になる予定だ。この「メディアセンターエディション」は、リビングなどに置かれたパソコンに搭載され、まるで最近のハードディスクレコーダーのようなインターフェイスを操作しながら、パソコンの中に溜め込まれた、もしくはインターネットから入手したコンテンツを楽しむ。

これらの新しい製品はマイクロソフトのブースにも展示され、WPCの中でももっとも注目すべき製品として公開されていた。



右から「タブレットPC」担当、アレックス・ローブ氏、「Smart Display」担当のキース・ホワイト氏、ehome担当のマイク・タトゥンギ氏。



マイクロソフトのブースでは実際に動いている日本語版「ウィンドウズXPメディアセンターエディション」が公開されていた。



(上段左)タブレットPCとともに発表された、無線でパソコンを遠隔操作する「Smart Displays」の富士通の試作機。(上段中)ソーテックが11月中旬に発売を予定しているタブレットPC「AFiNA Tablet AT380B」。(上段右)ソニーが11月より発売する録画サーバー「CoCoon」。奥は参考出品の記録型DVD搭載モデル。(下段左)富士通が参考出品したタブレットPC。ドッキングサーバーと組み合わせると、デスクトップパソコンと同様に使える。(下段中)松下が11月より発売する「Broadnow」。テレビ録画に加えて、インターネットのストリーミング放送も視聴できる。(下段右)NECが11月より発売する「AX10」。パソコンとの組み合わせを重視したハードディスク録画機。

## 展示の話題の中心はタブレットPCと録画サーバー

今回のWPC EXPOの展示会場では、やはり多くの来場者の関心を集めたのがタブレットPCだ。11月7日に予定されているマイクロソフトの「ウィンドウズXP タブレットPCエディション 日本語版」の正式発表を前に実機に触れるとあって、各ブースでも高い人気となっていた。11月から「AFiNA Tablet AT380B」の販売を表明しているソーテックをはじめ、富士通、NEC、東芝、ベースブレッドジャパン、ビューソニックジャパン、日本エイサーの計7社がそれぞれタブレットPCの実機や試作機を展示していた。

ただし、一口にタブレットPCと言っても、各社の製品は様ではない。ソーテックと東芝はノートパソコン型の製品を展示しており、いずれもディスプレイ部分が180度回転することで、ノート型とタブレット型の両方で使える形の製品だ。一方、富士通が展示している製品は単体ではキーボードの付属しないタブレットPCだが、DVD-ROMドライブ内蔵のドッキングステーション、ワイヤレスキーボードと組み合わせることで、デスクトップパソコンと同様

に使える製品を展示していた。また、NECではタブレットPCの特徴を活かすべく、キーボード無しのタイプで厚さが15mm、重さが1kg弱という薄型軽量の機種を展示していた。こうした各社の製品の多くは年内にも発売される予定だが、予定されている価格は各製品ともノートパソコンと同程度かやや高く設定されている。今回の展示会での注目の高さが実際の売れ行きにつながるかは、タブレットPCならではの利便性をどこまで打ち出せるかにかかってくるだろう。

タブレットPC以外には、各社がこの冬に発売するパソコンやPDAの新製品、複数の方式に対応した記録型DVDドライブなどが数多く展示されていたが、特に目立った製品となると、やはりテレビの録画機能を中心としたホームサーバー製品が挙げられる。テレビチューナーとハードディスクを搭載し、インターネットへの接続機能や無線LANのアクセスポイントとなる機能を持つ機器が、ソニー、松下、東芝、NEC、富士通といった各社で、いずれも今後のデジタル家電戦略の中心となる製品として展示されていた。

映像をMPEG-2形式でハードディスクに録画する、いわゆるハードディスク録画機

は、昨年末に松下と東芝がDVD-RAM/Rドライブも搭載した機種を発売したことで市場が急拡大している。各社の製品は、これにさらにネットワーク機能を加えることで、インターネットからの番組情報取得や、LAN内のパソコンから映像鑑賞や番組予約の管理などを行えるようにするものだ。ソニーの「CoCoon」、松下の「Broadnow」、NECの「AX-10」といったまもなく販売される製品が、いずれも各ブースにおいてもかなりのスペースを割いて紹介されていた。録画機にイーサネットが搭載される。そのプロトコルはもちろんTCP/IPなので、回線とセキュリティーの問題さえクリアすれば、外出先から自宅の録画サーバーの映像を見るといったことも可能になる。ソニーや松下ではこうした将来像をいずれも「映像のコピキタス化」として示しており、録画サーバーから広がるネットワークは、家電とパソコン、そしてインターネットをもつなく大きな潮流になることを予感させる内容となっていた。

## ロブ・ジンゲル氏インタビュー 開発者の意向を尊重する Java コミュニティープロセス

日本で2回目となるJavaOneが、9月25日～27日の3日間開催された。初の米国外開催として盛況を見せたJavaOneも、今回は経済状況の影響もあって来場者数は延べ6000人と伸びなかったが、熱心に情報収集に取り組む開発者の姿が見られた。このJavaOneの会場で、JCP(Java Community Process)の議長を務めるロブ・ジンゲル(Robert A. Gingell)氏にJavaを取り巻く現状について話を聞いた。

聞き手・文 渡邊利和

**Q** : マイクロソフトのTablet PC、ペンコンピューティングをどう思いますか。

**ジンゲル氏** : PCの利用に新しいモードが登場するのは間違いないでしょう。その意味ではTablet PCもおもしろい存在です。しかし、キーボードとマウスを基本とした仕様が変化するため、新しいアプリケーションも要求されるはず。どうしても利用はかぎられたものとなるでしょう。また、現在Javaコミュニティの中では、特にTablet PCのために何かしようという動きは出てき

サン・マイクロシステムズのソフトウェアシステムグループにおけるチーフ・エンジニア。Javaの仕様やリファレンス実装、テクノロジー互換性キットを策定するJava Community Process(JCP)の議長も兼任する。



ていません。

**Q** : 「Java」が複雑化してきているように見えるのですが。

**ジンゲル氏** : パフォーマンス改善のために新しいI/Oフレームワークが導入されたりはしていますが、もともとJavaはシンプルなフレームワークの上に構築されているものであり、コンセプトとしてはそう複雑なものではないと思います。開発者の要望に応える形で仕様が拡大し、成長していくことを止めることはできませんが、現時点ではそれもあまり問題にはなっていないでしょう。

Javaの生みの親であるジェームス・ゴスリング氏がよく言うことなのですが、Javaには2つの階層があります。1つはJVM(Java Virtual Machine)で、その上に載るのはJava言語の層です。JVM層の上に載るのは何も現在のJava言語だけに限定されているわけではないですから、必要であればJVMの上に別のシンタックス(構文)を載せてやることも考えられるとジェームスは言っています。現在のJavaはトランザクション処理が中心ですが、数値演算に特化した処理を行いたい場合など、目的に応じて適切なシンタックスを作って載せてやればよいのではないかと、ということです。これは現在のゴスリング氏の研究テーマです。

**Q** : JCPとオープンソースコミュニティとの関わりはどうなっていますか。

**ジンゲル氏** : オープンソースコミュニティの人々がJCPに参加しやすくするための努力は行われていると思います。これまで高かった敷居を下げる努力をしてきたのです。JCPそのものに関しては今特に大きく動いていることはありませんが、Linuxに実装しやすくするなどの方策を実施しているところです。一方、Linuxコミュニティも1つの

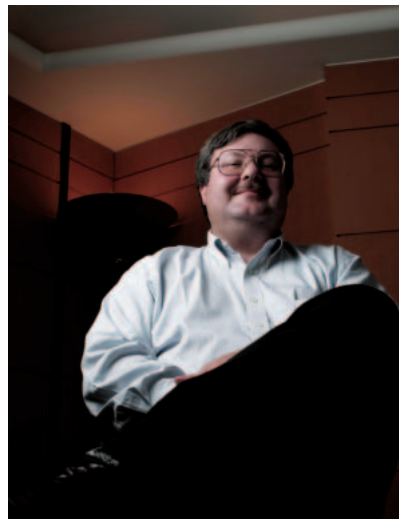


photo : Watari Tokuhiro

コミュニティではなく、カーネルやGNUユーティリティなど、複数のコミュニティが存在します。オープンソースコミュニティという単一の存在ではないため「どう関わっていくか」という問いにも明確な答えはありません。

JCPでは、開発者の意向を尊重することになっています。どのようなライセンスを選ぶかは開発者自身が決定します。「ソフトウェアに関して所有権を認めるべきではない」という考え方もありますが、これはビジネスの見地からは非現実的ですし、あまりにもラディカル過ぎます。だからこそ、ApacheライセンスはGPL(GNUプロジェクトが提唱するフリーソフトウェアのライセンス)とは異なる規定を用意したのでしょう。Java開発者の中にはオープンソースにはしたくないという人もいますが、その意向も尊重します。ですが、オープンソースにしないことで制限が加わったり問題が生じたりすることがないようにしていただきたいと要望しています。さらに、JCPに則って作られた仕様が気に入らない場合は、別のものを作成してもよいことにしました。ただし、十分な互換性を確保するように要請しています。こうした選択肢も許容しているのです。

## ホームネットワークは“エンターテインメント”から“コントロール”へ CEATEC JAPAN 2002が見せた “近未来ハウス”までの距離

10月1日から5日まで、千葉県幕張で開催されたIT機器の大型展示会「CEATEC JAPAN 2002」。今回目立ったのはホームネットワーク関連の製品だ。現在、ホームネットワークといえば「映画」や「音楽」といったエンターテインメントコンテンツをオーディオやテレビなど、ネットワークでつながったAV機器で共有するという方向が大きな流れになっているが、CEATECで目立ったのは、むしろ電子レンジ、冷蔵庫などの“白物家電”をネットワークでつなぎ、コントロール端末で制御しようというシステムだった。たとえば松下電器と日立ホーム＆ライフソリューションは「ECHONET」と呼ばれる宅内ネットワークシステムと、小電力無線アダプターを利用して、白物家電を集中管理するデモを行っていた。この「ECHONET」対応家電は

2003年度中に商品化される予定だ。

さらに三菱電機はマイクロソフトが中心となって策定を進めている家電ネットワークのプロトコル、SCPをサポートしたシステムのデモを行っていた。このネットワークシステムは電灯線を使って家電を制御する。同社は年度内にもSCP対応チップ「M306S」を市場に投入する計画だ。

写真の有機EL液晶などのディスプレイ関連、ブルーレーザDVDなどもCEATECでは注目された製品だ。



ホームネットワークに力を入れているフィリップスは、白物家電をコントロールする端末を展示していた。



松下電器のブースでは「ECHONET」対応の電子レンジ、冷蔵庫やコントロール端末(写真)が展示されていた。

## 広大なる中国IT市場を目指す国策が急務 片山総務大臣が日中韓のIT分野での 協力体制を発表

モロッコの都市、マラケシュにおいて9月24日に初めて行われた「日中韓情報通信大臣会合」。日本からは片山虎之助総務大臣が出席したこの会合の結果を受け、10月15日に総務省で日中韓情報通信等連絡会が行われた。

まず、片山総務大臣が挨拶をし、そのなかで「海外ではITではなくICT(情報通信技術)という言葉がスタンダード。これからは、日中韓ICTパートナーシップを結んでいかなければいけない」と発言し、アジアの三国がより情報通信の分野で協力関係を深めて、新しい技術開発などを進めていきたいと主張した。続いて総務省側から説明があり、日中韓のパートナーシップをさらに進めるためには、中国における外資系企業に

対する規制を緩和することが重要だと報告された。総務省側によれば、現在、外資系企業が中国市場に参入するための条件が明確ではないことも、企業の中国市場参入を難しくしているとのことだ。この点を改善して、中国で外資系企業がさらに活発に活動できるようにしてほしいとの要望を、総務省はすでに中国側に伝えている。

この連絡会では、ほかにも月尾嘉男総務審議官が「アジア独自のコンテンツを充実させるためにも、Unicodeに変わる漢字コードのようなものを作り、漢字文化圏のコンテンツを発信していかなければいけない」と発言。アジアがICT分野での連携をさらに強力にすることで生まれるさまざまなメリットが報告された。



日中韓情報通信大臣会合の報告をする片山虎之助総務大臣。この会合では日中韓の連携の話のほか、ITU(国際電気通信連合)の事務総局長選挙で内海事務総局長が再任されたことなどが報告された。

## ITが生活をインテリジェントにする Life with Sony 2003 が提案する “ 次の幸せ ”

10月8日、ソニーは都内河田町の小笠原伯爵邸においてLife with Sony 2003を開催した。「ソニーとの新生活、大公開」をテーマにしたこの展示会は、VAIO、WEGA、サイバーショット、ハンディカムなどのソニーブランド製品を家の中で相互に接続することで、どのようなITライフが実現するかをわかりやすく表現しようというものだ。

リビングルームでは9月28日に発売された「VAIO PCV-RZ60L7」、10月20日に発売された50V型プラズマテレビ「WEGA KDE-P50HX1」、11月に発売予定のチャンネルサーバー「CoCoon CSV-E77」、テレビとネットワークのブリッジ「ルームリンク」をそれぞれ802.11a規格の無線で接続し、テレビの新しい楽しみ方を提案した。

中庭にはカーナビ「NVX-DV609」とハー

ドディスクカーオーディオ「MEX-5DI」を搭載したフェラーリとベンツも展示された。

ソニーマーケティングの柘野賢一氏は今回のコンセプトを「生活臭のある家、身近なシーンの中でソニー製品群を1か所に集めたら、どのようなLife Styleが浮かび上がるかを確かめてほしい」と語った。



ベンツ搭載のDVDカーナビは銀バネではなく高級感のあるカスタムカラーが施された。



WEGA、VAIO、CoCoon、ルームリンクによって実現する次世代ホームシアター。

## 「ADSL12M」「IP電話」「無線LAN」の1台三役 Yahoo! BBがトリオモデムを発表、 お得なセットプランも試験提供

Yahoo! BBを手掛けるピー・ピー・テクノロジー株式会社は10月1日、「Yahoo! BBトリオモデム12M」を発表した。これまでのIP電話機能付きADSLモデム(コンボモデム)に新たに無線LAN機能を搭載、1台のモデムでADSLアクセス、IP電話、無線LANという3つのサービスが利用できる。

トリオモデムの無線LAN部分はIEEE 802.11bに準拠し、DHCP搭載のルーター機能を備えている。接続する無線LANカードなどのMACアドレスは8つまで登録でき、WEPキーは128ビット長まで標準でサポートしている。一方で有線ポート(イーサネット)部は従来のコンボモデムと同じブリッジ接続となる。

また同社は、Yahoo! BBのADSL12M接続サービスとIP電話(BBフォン)、無線

LANおよびマクドナルドなどの飲食店で提供されている無線LANサービス(Yahoo! BBモバイル)のすべてが利用できる「Yahoo! BB 12M + 無線LANパック」の試験サービスも開始した。新規に申し込んだユーザーを対象に先着3万人が試験サービスを利用できる。利用にはADSL12Mの月額固定料金である2,480円に加えて、無線LAN利用料として月額990円が必要になる。「Yahoo! BB 12M + 無線LANパック」のユーザーは、現在試験サービス中のYahoo! BBモバイルが商用サービスを開始した後も無料で利用できる予定だという。

同社によれば、こうした付加価値の高い複合メニューの提供は、サービスの解約率を低く抑える効果も期待あるという。



トリオモデムを紹介するピー・ピー・テクノロジーの孫正義社長(10月1日の会見にて)。

# GMOが三井住友海上火災保険と共同で提供 保険料が0円で全員に付与 ネット保険付きレンタルサーバー登場

Jump [www.gmo.jp](http://www.gmo.jp)

グローバルメディアオンライン(GMO)は、レンタルサーバーサービス「interQ OFFICE」と「BROAD SERVER」のすべてのユーザーに対して、三井住友海上火災と共同で業界初の損害賠償保険「GMO NETガード」を10月1日から無料で付与した。

これまで保険といえば、たとえば一定のシステム稼働時間を保障しているにもかかわらず、それが満たされなかった場合に相当の利用料金をユーザーに返金するなど、サービス提供会社が自分の責によって損害を与えた際に、提供会社が加入している損害保険で補償するのが一般的だ。ユーザーが、誤って個人顧客の情報を漏洩して損害賠償を請求されるなど、過失による損害リスクに備えたいと考えた場合は、ユーザー自身が保険会社と契約するしかなかった。

しかし、そうした保険は年間数十万円の

保険料がかかるため、大企業でなければ加入するのは難しい。そのうえ大企業であっても、利用しているシステムやネットワークの情報を保険会社に開示しなければならないケースが多く、そのために加入をためらうユーザーも多かった。

GMOは、中小企業や個人でもリスクに備えて安心できるようにネット保険を標準で付与した。保険は三井住友海上火災が引き受け、GMOが保険契約者となって保険料を負担するため、レンタルサーバーのユーザーはなにも手続きをすることなく無料で被保険者となる。別表の事故によって、第三者から損害賠償請求を受けても、最高100万円まで損害賠償金や係争費用などが補償される。GMOは、この保険を業界に先駆けて導入することで、ユーザーの拡大と満足度の向上を図る。



## 対象となる業務

- ・個人情報管理
- ・自社ホームページ運営、管理
- ・電子メールの送信、受信

## 対象となる事故

- ・情報機器および情報メディア(記録媒体)からの個人情報漏洩
- ・外部からのコンピュータウイルスの侵入
- ・第三者による不正アクセス
- ・第三者に対する名誉毀損またはプライバシーの侵害

## ICANNがISOCを「.ORG」のレジストリに選定

Jump [www.isoc.org](http://www.isoc.org)

10月14日、ICANNは「.ORG」レジストリにISOC(The Internet Society)を選出した。ISOCはこれを受け、非営利団体「PIR」(Public Interest Registry)を設立。これまで、「.ORG」のトップレベルドメイン管理を行っていたVeriSignの契約が失効する2002年12月31日から業務を引き継ぐ。レジストリサービスを提供するためのバックエンドは、「.info」のレジストリであるAfilias Limited社が担当する。今回の「.ORG」レジストリ再選出は、2001年5月にICANN、VeriSign、米国商務省の間で交わされた合意に基づいて行われたもの。「.COM」「.NET」のトップレベルドメイン管理は引き続きVeriSignが行う。

## ホームインターゲートがネット家電事業展開で増資

ホームインターゲートは、7月に開始された蓄積型双方向サービス「ep」において、epステーションとインターネットの簡単接続や今後のネット家電の取り組みに向けたインターネット接続基盤を実現するために、松下電器産業、東芝、インターネット研究所、イービーの4社により資本金2億9千万円で設立された。9月28日には、デジタルテレビやネット家電とインターネットとの接続のサポート、ネット家電の安定動作を確保するためのサポートなどの新たな事業展開に向け、富士通、日本電気、NTTコミュニケーションズ、KDDIからの増資を発表し、8社合計4億9千万円で新事業の推進に努める。

## KDDIインターネットIPフォンが本格サービスへ移行

Jump [www.kddi.com](http://www.kddi.com)

KDDIは、7月29日に試験サービスを開始した法人向けの「KDDIインターネットIPフォンサービス」を、11月1日から本サービスに移行する。料金は、通話料が全国一律8.5円/3分、基本料金が2,000円/1ch、IPフォンアダプターのレンタル料が4,000円/1台、新規登録工事費が2,000円/契約、IPフォンアダプター新設工事費が15,000円/工事となっている。また、12月からはDION ADSLの付加サービスとして、個人向けIP電話の試験サービスを開始する。IP電話からの発信、一般加入電話への着信、加入者間の通話が可能で、料金は未定。2003年春には本サービスを開始する予定。

## ファーストサーバとサイボウズがASPで事業提携

Jump [www.fsv.jp/AG/](http://www.fsv.jp/AG/)

ホスティングサービス会社のファーストサーバは、サイボウズと事業提携し、サイボウズのグループウェア製品「サイボウズ AG」を10月16日からASPサービスとして提供を開始した。両社は2001年12月から、すでに「サイボウズ Office 4 for ASP」を提供しているが、今回の事業提携でその関係をさらに深める。なお、「サイボウズ AG」は「サイボウズ Office 4」の後継にあたる。ファーストサーバはASPサービスの拡充でレンタルサーバーサービスに高い付加価値を付ける。一方のサイボウズはグループウェアの導入に加えてサーバー運用管理までを提供することで新たな顧客を取り込みたい意向だ。



## NEC個人向けPCの新ラインナップ発表 PCと連携する ホームAVサーバーも登場

NECは10月10日、デスクトップパソコン「VALUESTAR」、ノートパソコン「LaVie」の新製品と、パソコンと連携して利用するホームAVサーバー「AX10」を発表した。パソコンの各製品は10月17日より、AX10は11月14日より順次出荷予定となっている。

今回の新製品より、NECでは各製品を「ファミリー向け」「パーソナル向け」「ニュースタイル」の3つのターゲットに合わせた商品展開を行っている。ファミリー向けの「VALUESTAR F」「LaVie F」では、家族それぞれの専用ボタンを押すことで環境が切り替わる「ファミリーボタン」を搭載し、家族のスケジュールや伝言などを共有できる「ファミリーウィンドウ」を採用するなど、家族でパソコンを共有することを前提とした製品作りとなっている。一方、パーソナル向けの「LaVie N」では、ACケーブルやマ

ウスを接続したまま縦置きで収納できるフレームスタンドを採用、「VALUESTAR T」では液晶ディスプレイ表面の亚克力パネルを振動させることでスピーカーとする「SoundVu」機能を採用するなど、個性的な特徴を持つ製品を揃えている。

「ニュースタイル」商品としては発表された「AX10」はテレビ放送をハードディスク録画できる専用機で、テレビに接続して録画機として使用するだけでなく、イーサネット経由でLAN内のパソコンから同時に2台まで映像を視聴でき、撮った映像をパソコンに転送して、編集したうえでDVD-Rなどに保存することもできる。ハードディスク容量は80Gバイトで、標準画質で40時間まで録画可能。価格はオープンブライズだが、NECの直販サイト価格では99,800円となっている。

### ホームサーバー



パソコンに接続して使えるAVサーバー「AX10」



液晶パネルの亚克力パネルがスピーカーになる「VALUESTAR T」

価格：オープンブライズ

iziware.com

## 新ブランド「DTI-Rasch」開始 SOHO向けにリーズナブルに提供、 第一弾は高機能レンタルサーバー

ドリーム・トレイン・インターネット(DTI)は、SOHO向けの新ブランド「DTI-Rasch」を発表し、その第一弾として、10月1日から「DTI-Rasch Diversion サーバサービス」を開始した。

DTIは1996年より個人向けサービスの延長上にある「ビジネスプラン」や法人向け総合サービス「DTI-Magic」を提供してきた。DTI-Magicのレンタルサーバーは、ウェブとメールのサーバーが独立した安いプランでも、月額料金が合わせて約2万5,000円だ。そこで今回、1人から10人程度のSOHO向けに専門ブランドを確立することで、月4,500円というリーズナブルな価格帯を実現した。それに加え、高品質、高機能という三本柱をDTI-Raschの特徴としている。

「DTI-Rasch Diversion サーバサービス」は、簡単なブラウザの設定画面で誰でもサーバー管理者になれるというもの。ウェブページのアクセス状況の確認やメールアドレス、メール転送、メーリングリストなどの設定はこれで行う。また、手軽にドメインが取れるようにドメイン取得手数料を無料にし、1サーバーあたりの登録数を200社に限定することで快適さを提供する。

オプションでウイルスチェックサービスも用意し、送受信メールがウイルスに感染していないかどうかを自動でチェックする。現在、申し込んだ最初の月だけオプション月額料金2,000円(メールディスク容量100Mバイト)が無料になるキャンペーンを実施している。

### SOHO ホスティング



#### 【DTI-Rasch Diversion サーバサービス概要】

初期費用	15,000円
月額基本料金	4,500円(口座振替のみ)
メールディスク容量	100MB(最大400MB)
WWWディスク容量	100MB(最大400MB)
メールアドレス	無制限
メーリングリスト、自動応答設定、ウェブメール、オリジナルCGI、会員制ウェブ設定、ログ解析ほか	

www.rasch.jp

## 富士通がホームネットワーク新製品

富士通は10月8日、FMVシリーズの新ラインナップに併せて、ルーター、無線LAN、サーバー機能を搭載するホームサーバー「ファミリーネットワークステーション」を発表した。ファミリーネットワークステーションの標準タイプ「FMFNS-101」は、40GBのハードディスクを持ち、映像や音楽、画像を貯められるほか、プリントサーバーやIEEE802.11bに準拠した無線LANの機能も兼ね備える。また、家だけでなく、外出先からもアクセスできる。PCとFMFNS-101のセットモデルを発売しているほか、テレビチューナー付きの「FMFNS-201」が12月に発売される。

価格：オープンプライス  [www.fmworld.net](http://www.fmworld.net)

### ホームサーバー



## 日立が無線アクセスポイント発売

日立製作所コピキタプラットフォームグループは、IEEE 802.11a準拠の「5GHz無線LANシステム」を9月25日に発売した。可動式アンテナが2本付いたアクセスポイントとカードで構成される。最大通信速度は理論値54Mbps、実効速度は約22Mbps。従来の64、128ビットに加えて152ビットのWEPキー(暗号キー)に対応し、セキュリティを向上させている。個々のMACアドレスに異なるWEPキーを設定することも可能だ。こうした設定はブラウザを使って行う。また、専用のユーティリティを使って802.11a対応のアクセスポイントを自動検出することもできる。

価格：49,800円(カード19,800円)  [value-shop.hitachi.co.jp](http://value-shop.hitachi.co.jp)

### 無線LAN



## 東芝がBluetooth搭載HDDを発売

東芝は、画像や音楽データを保存し、PDAやPCとBluetoothを使ってワイヤレスに送受信できるポータブル記憶装置「HOPBIT」を11月1日に発売する。かばんやポケットに入れて持ち歩き、手元のPDAとBluetoothでやり取りすることで、大容量の地図情報や音楽データにいつでもアクセスできる。ハードディスク容量は5GBで、内蔵リチウムイオンバッテリーを使用。PCとはUSB1.1でも接続できる。連続待ち受け時間はBluetooth待機時で最大200時間。連続駆動時間は6時間。現在、東芝デジタルメディアエンジニアリングのウェブで先行予約販売中。

価格：オープンプライス  [sales.toshiba-dme.co.jp](http://sales.toshiba-dme.co.jp)

### ポケットサーバー



## 日本電算機が電子番組表を提供

日本電算機は、ホームメディアサーバー「iBOXブロードメディアサーバ」の利用者向けに、インターネットを経由した電子番組表サービス「ブロードバンドEPG(Bepg)」を10月11日に開始した。「iBOXブロードメディアサーバ」は、ルーター、プリントサーバー、ウェブサーバーなどを搭載し、テレビチューナーとハードディスク(標準80GB)でテレビ録画も行える。Bepgサービスでは、好みのジャンルなどで録画番組を指定でき、好みを把握して次週の番組予約を自動で行う機能がある。利用者が意見交換できるコミュニティサイトも同時に開設した。

価格：オープンプライス(本体)  [www.jcc.co.jp](http://www.jcc.co.jp)

### 電子番組表



## メンタルタフネスを強化するASP

ネットエイジは、職業上のプレッシャーやストレスに対して、従業員が自ら精神的な免疫力を強化するためのeラーニングサービス「MTOPI」(エムトピー)を10月9日から開始した。従業員が職場でのストレスからうつ病にかかったり、入社拒否したりする問題が企業などで深刻化している。MTOPIはこの予防のために開発されたASPによるeラーニングサービスで、高杉尚孝氏や社会心理学者の加藤諦三氏といったこの分野での権威が開発にかかわっている。MTOPIは企業や官公庁向けに提供され、今後はISP向けコンテンツとしての提供も検討されている。

価格：月額500円～1,000円+初期導入費(25万円から)  [www.mtop.jp](http://www.mtop.jp)

### eラーニング



## @niftyが海外無線LANローミング

ニフティは、米国GRIC Communications, Inc.の接続網を利用して、海外でインターネットを利用する場合に、無線LANを使ったローミングサービスを使える「GRICブロードバンド」を10月10日に開始した。これにより、@nifty会員はダイヤルアップだけでなく、米国、香港、シンガポール、オーストラリア、中国、台湾などの世界10か国約630か所の無線ホットスポットからもインターネットを利用できるようになる。料金は利用分数によって算出されるため、利用したホットスポット数は関係ない。@nifty会員であれば、別途登録をする必要なく使える。

価格：1分40円  [www.nifty.com/roaming/](http://www.nifty.com/roaming/)

### 無線LAN



**無線LAN、VoIP搭載カシオペア**

カシオ計算機は、PDAとハンディターミナル機能を兼ね備えた業務用の携帯情報端末として、「カシオペア DT5100」を1月下旬に発売する。無線LAN、Bluetooth、カメラのほかに、レーザー scannerも装備したほか、無線LAN経由でVoIPでの音声通話にも対応した。

価格: オープンプライス [www.casio.co.jp](http://www.casio.co.jp)

PDA



**通信カードスロット搭載「CLIE」発売**

ソニーは、CFカードスロットを標準搭載したCLIE「PEG-NX70V」を10月19日に発売した。別売りの無線LANやPHSのCFカードのほか、メモリースティックスロットに挿せるBluetoothモジュールも利用でき、通信機能が強化された。31万画素の回転カメラでは動画も撮影できる。

価格: オープンプライス [www.sony.jp/CLIE/](http://www.sony.jp/CLIE/)

PDA



**京セラが最軽量500万画素デジカメ発売**

京セラは、有効画素数500万画素で世界最軽量(約165g)のデジタルカメラ「KYOCERA Finecam S5」を10月下旬に発売する。光学3倍ズーム(デジタルズームは4倍で併用時12倍ズーム)を搭載し、晴天時に野外でも視認性のいいTFTカラー液晶モニターを採用した。

価格: 88,000円 [www.kyocera.co.jp](http://www.kyocera.co.jp)

デジタルカメラ



**松下電器12倍ズーム搭載デジカメ発売**

松下電器は光学12倍ズームレンズ搭載の200万画素デジタルカメラ「LUMIX・DMC-FZ1」を11月8日に発売する。独自の手ぶれ補正機能を持ち、望遠時でもぶれの抑えた写真を撮影できる。また、新LSI「VENUSエンジン」を搭載し、斜め方向の解像度を従来の約1.5倍にまで高めた。

価格: オープンプライス [www.panasonic.co.jp](http://www.panasonic.co.jp)

デジタルカメラ



**沖電気がADSLモデム内蔵VoIPルーター発売**

沖電気工業は、通信事業者やプロバイダー向けに、一般家庭に容易に設置できるADSLモデム内蔵型のVoIPルーター「VR11A-C」を10月2日に発売した。この製品は、自社のVoIPゲートウェイ装置「IPstage」のOEMで、IP電話の通話制御プロトコルであるSIPにも対応している。

価格: 通信事業者やプロバイダーより販売 [www.oki.com/jp/](http://www.oki.com/jp/)

VoIP



**オリンパス写真撮影可能なICレコーダー発売**

オリンパス光学工業は、30万画素のC-MOSイメージセンサーを搭載したICレコーダー「Voice-Trek W-1」を10月10日に発売した。録音した状態で同時に写真を1ファイルにつき最大50枚まで撮影できる。32MBフラッシュメモリ内蔵。音声と画像の両方を管理できるソフトを同梱。

価格: 28,000円 [www.olympus.co.jp](http://www.olympus.co.jp)

ICレコーダー



**P & Aがディスク完全複製ソフト発売**

P & Aは、個人のバックアップ目的で、オリジナルのCDを完全にコピーできるディスク複製ソフト「BlindWrite Suite 4J」のパッケージ版を10月18日に発売した。MP3、Ogg Vorbis、WAV、WMAファイルからオーディオCDを作成でき、コピープロテクトされたディスクの複製にも対応。

価格: 7,800円 / 4,800円(DL版) [www.panda.co.jp/blindwrite/](http://www.panda.co.jp/blindwrite/)

CDバックアップ



**ソニーがEverQuest日本語版配信**

ソニーは、ハリウッド発の人気オンラインゲーム「EverQuest (エバークエスト)」の日本語版配信サービスを提供する。2002年12月からベータ版を開始し、2003年2月からSo-netを通じて正式に有料で開始する予定だ。ウィンドウズ98以上に対応。全世界で43万人の有料会員数を誇る。

価格: 未定 [www.jp.everquest.com](http://www.jp.everquest.com)

ネットワークゲーム



**コピー防止技術付き壁紙ASPサービス**

壁紙ドットコムは、コピー防止・電子透かし・ファイル暗号化・利用期限設定などで肖像権や著作権保護が可能になる技術を備えた壁紙ダウンロードシステムのASPサービスの提供を開始した。まずは、現在放送中の日本テレビのドラマ『リモート』のホームページでこれを採用している。

[www.kabegami.com](http://www.kabegami.com) [www.ntv.co.jp/remote/](http://www.ntv.co.jp/remote/)

壁紙ASP

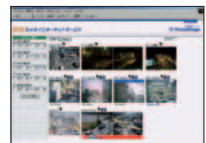


**NTT-ME1万台のウェブカメラ配信サービス**

NTT-MEは、映像配信から監視環境の構築まで行うASPサービス「WEBカメラインターネットサービス」を10月8日に開始した。カメラ機種の違いにかかわらず最大1万台の映像を配信して一覧表示できるほか、7日間の録画も可能。

初期費用: 119,000円~(カメラ1台) / 月額費用: 3,480円~(カメラ1台) [www.ntt-me.co.jp](http://www.ntt-me.co.jp)

ウェブカメラ

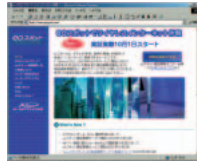


## ケイ・オプティコムが無線LAN実証実験

ケイ・オプティコムは、2.4GHz帯および5GHz帯の無線LANを利用した「eoスポット」サービスの実証実験を10月1日に開始した。エリアは京阪神のエクセルシオールカフェなどで、アクセスマインにケイ・オプティコムの光ファイバーを利用している。2003年3月31日まで実施の予定。

 [www.eospot.com](http://www.eospot.com) (モニター受付中)

## 無線LAN



## NTT-ME無線IP電話のフィールド実験

NTT-MEは、無線LAN実験「NeoMobile」の一環として、VoIPと無線LANを組み合わせたPDAを使った「NeoMobile IP電話トライアル」を10月23日に開始する。首都圏の駅などのNeoMobileサービス地域で、参加者同士で、あるいはPDAから一般電話に電話を掛けられる。

 [www.neomobile.ne.jp](http://www.neomobile.ne.jp) (11月末までモニター募集)

## VoIP

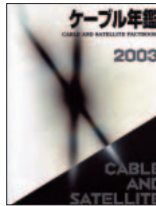


## 最新版「ケーブル年間2003」発売

デジタル&ブロードバンドビジネス専門の出版社サテマガ・ピー・アイは、日本で唯一のケーブルテレビデータ集「ケーブル年鑑2003」を10月15日に発売した。全国約420局の会社概要や加入状況、システム概要など詳細なデータを掲載している。スカパーやCS番組供給者の概要も掲載。


価格：11,000円  [www.satemaga.co.jp](http://www.satemaga.co.jp)

## 年鑑



## ビジネスぶらら法人サービス超特価

法人ISP「ビジネスぶらら」では、キャンペーンを実施中。ぶらら個人会員が法人を紹介し、入会してもらえば、紹介した会員の基本料金が1か月無料になるほか、抽選で10人にQUOカード総額10万円分をプレゼント。入会した法人会員もBフレッツセット3か月無料などの割引がある。

 [biz.plala.or.jp](http://biz.plala.or.jp) (キャンペーンは12月31日まで)

## キャンペーン



## ASAHIネットBフレッツ取り次ぎ優待を実施


ASAHIネットは、NTT東西の「Bフレッツ」各タイプを2003年1月31日までにASAHIネットの取り次ぎ申し込み窓口から申し込んだ会員を対象に優待キャンペーンを実施する。「Bフレッツオプション」サービスの月額利用料(ベーシックタイプは3,450円、ファミリータイプやニューファミリータイプ、ファミリー100タイプは950円)が4か月間無料になる。ただし、別途ASAHIネットの月額基本料がかかる。

 [www.asahi-net.or.jp](http://www.asahi-net.or.jp)

## キャンペーン

## キャンペーンに参加してベッカムに会おう

カストロールは、運転中の携帯電話不利用を訴える「NOケータイドライビング YES、ベッカム・キャンペーン」を展開中。人気サッカー選手、デヴィッド・ベッカムの待ち受け画面のダウンロードや、抽選でベッカムに会える英国ツアーも当たる。参加は以下のサイトで11月10日まで無料。

 [castrol.jp](http://castrol.jp) (iモード、J-SKY、Ezウェブ)

## キャンペーン



P.85にプレゼントあり

# イベントカレンダー


今月開催されるイベントを紹介。11月6日からは、シマンテックがセキュリティ分野で国内最大規模のカンファレンス「Symantec SecureXchange 2002」を開催する。

## 【募集】

イベント一覧に掲載したい方は以下のメールアドレスまで情報を送ってください。

 [im-release@impress.co.jp](mailto:im-release@impress.co.jp)



名称	期間	場所	主催	URL
EDS PLM Solutions Users 'Conference 2002	10月30日(水) - 31日(木)	東京・京王プラザホテル	EDS PLM Solutions	 <a href="http://www.plmsolutions-eds.jp">www.plmsolutions-eds.jp</a>
Strategic Solution Summit	10月31日(木)	東京・ホテルニューオータニ 芙蓉の間	サン・マイクロシステムズ(株)	 <a href="http://sun.co.jp/solution2002/">sun.co.jp/solution2002/</a>
Symantec SecureXchange 2002	11月6日(水) - 7日(木)	東京・新高輪プリンスホテル 国際館バミール	(株)シマンテック	 <a href="http://www.symantec.co.jp">www.symantec.co.jp</a>
CallCenter/CRM Demo & Conference 2002	11月7日(木) - 8日(金)	東京・池袋サンシャインシティ 文化会館	(株)リックテレコム / CMPジャパン(株)	 <a href="http://www.callcenter-japan.com">www.callcenter-japan.com</a>
CiscoWave for Executive 2002	11月14日(木) - 15日(金)	東京・品川プリンスホテル	シスコシステムズ(株)	 <a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/cisco/">expo.nikkeibp.co.jp/cisco/</a>
Borland Conference 2002 Tokyo	11月18日(月) - 19日(火)	東京・ロイヤルパークホテル	ポーランド(株)	 <a href="http://www.seminar.co.jp/borcon2002/">www.seminar.co.jp/borcon2002/</a>
Internet World Asia 2002	12月4日(水) - 12月6日(金)	東京ビッグサイト	(株)IDGジャパン、米国Penton Media, Inc.	 <a href="http://www.idg.co.jp/expo/iw/">www.idg.co.jp/expo/iw/</a>

## 初期操作を覚えるだけ初心者でも効率的な作業が可能に クレオが操作ガイドなどを強化した毛筆印刷ソフト 「筆まめ Ver.13」を発売

年間出荷数65万本、累計出荷数505万本を誇る毛筆印刷ソフトの定番的存在、クレオの「筆まめ」がVer.13にバージョンアップした。今回のバージョンでは、2003年の干支であるひつじのイラストを追加するといった定番的な機能強化に加え、新たにいくつかの新機能が搭載されている。

なかでももっとも大きな変更点としては、操作方法を徹底的にサポートする各種ガイドの強化があげられる。操作中の画面に、実際の操作と連動する操作ガイドが表示されるようになったり、ボタン類が大きく見やすいものへと改良されたりしたことで、大幅に操作性が向上した。これにより、次にどのような操作をすればよいのかわからないといったことがなくなり、初心者でも安心して使えるように、そして既存のユーザーがより効率的に作業できるようになった。

また、対応する市販の用紙の種類を増

やすことで、CD-Rラベルやリフィル用紙などへの印刷にも対応。さらに、他社製のアプリケーションソフトやインターネット上のサービスとの連携も強化されており、市販のイラスト集や地図ソフトから画像や地図を文面に取り込んだり、プリントサービスによって作成した文面を大量に印刷したりといったことなども可能となっている。これまでのバージョンと比べて、より幅広い用途への活用が可能になり、年賀状の作成だけでなく、案内状やラベルの作成などへの利用も可能になったのだ。

しかも、ブロードバンド環境での利用も考慮されており、同社が提供する「筆まめBB」サービス(11月5日よりサービス提供予定)を利用することで、「筆まめ Ver.13」をさらに便利に活用することができるようになる。「筆まめBB」とは、インターネット上で住所録を共有したり、郵便番号辞書、電子電話帳の最新データの利用、季節や



標準価格(税別)

筆まめ Ver.13(CD-ROM版): 5,980円

筆まめ Ver.13(DVD-ROM版): 5,980円

筆まめ Ver.13アップグレード版(CD-ROM版): 3,480円

筆まめ Ver.13アップグレード版(DVD-ROM版): 3,480円

「筆まめBB」サービス利用権付(2003年6月未まで)

対応OS

ウィンドウズ98/Me/2000/XP

行事に応じたイラスト・文例を自由に利用したりできるサービスのこと。

本来、この「筆まめBB」のサービスを利用するには年間7,800円(予価)の料金が必要だが、ユーザー登録をした正規ユーザーであれば、2003年6月30日まで無料で利用可能となっている(7月1日以降も継続してサービスを利用する場合は年間3,600円の料金が必要)。スタンドアローンの環境では実現できなかった利便性が提供されるのは大きな魅力だろう。

このほかにも、プリンターを最適な状態に調整する自動設定機能や10月にマイクロソフトから発表されたTablet PCに対応するアドオンの提供など、さまざまな新機能が提供されている。

いまや年賀状をパソコンで作成することも珍しいことではなくなってきたが、作業効率やできあがった年賀状の完成度は、毛筆印刷ソフトの出来に大きく左右される。このような点を考えると、やはり「筆まめ Ver.13」のような高機能で使いやすいソフトの利用を検討したいところだ。



画面の左側に操作ガイドが表示される。メニューのボタンも大きく見やすく変更された

# 「映像配信機能」や「会員管理機能」など付加価値を大幅に強化したサービスへ NTTスマートコネク트가ホスティングサービス 「smartSQUARE」を大幅リニューアル

NTTスマートコネク트는、iDCによるブロードバンド対応ホスティングサービス「smartSQUARE」(スマートスクウェア)のサービス内容を大幅にリニューアルし、9月1日から実際のサービス提供をスタートさせた。

すでにホスティングサービスは数多くの企業で利用されているが、ブロードバンド環境の普及に伴い、ユーザーのニーズは単純なコスト的なものからiDCの利用による信頼性の高さや動画配信などの付加価値的な部分へとシフトしつつある。

もともと「smartSQUARE」は、ウェブサーバーやメールサーバー、データベースサーバーなどのアプリケーション付きホスティングサービスとして高い評価を得てきたサービスだが、今回、前述したようなユーザーニーズの変化に伴って、さらに付加価値的な機能を強化することになった。具体的には「映像配信機能」、「会員管理機能」、「ウイルスチェック機能」などが追加されている。

まず、映像配信機能は動画コンテンツ配信を実現するための機能だ。配信可能なメディア形式としては、「WMT」(Windows Media Technologies)、「Real Audio/Vid eo」、「Quick Time」の3種類に対応しており、300kbpsから最大1Mbpsのエンコード

帯域のストリーミングを配信することが可能となっている。ディスク容量も豊富に用意されており、サービス品目ごとに30Mバイトから最大20Gバイトまで利用可能と、本格的なストリーミングビジネスなどへの利用も容易だ。

会員管理機能はホームページにアクセスするユーザーを会員化し、各会員の属性情報にあわせてパーソナライズされたページの閲覧やメール配信、さまざまなアンケートなどを実現するための機能を提供するサービスだ。通常、このようなサービスを導入する場合はSIベンダーなどに開発を依頼するケースが多いが、それに比べて低コストでの会員管理が可能となっている。前述した映像配信機能などと組み合わせることで、顧客のニーズに合ったサービスを提供するのに最適な機能となっている。

最後のウイルスチェック機能は、サーバー経由でやり取りされるメールのウイルスチェックを実行するサービスだ。ここ最近のウイルスの被害は、メールを感染経路としたものが圧倒的に多い。これに対抗するために「smartSQUARE」では、トレンドマイクロの「InterScan VirusWall」を採用。サーバー上のメールのウイルスのリアルタイム検知・駆除を可能にしている。悪質なウイルスに対抗するためには、自社ネットワークへのウイルスの感染はもちろん



のこと、メールの送信先となる他社のネットワークへの感染の拡大も防止することが重要だと言える。しかし、「smartSQUARE」のウイルスチェック機能を利用すれば、これらをすべてサーバー上で自動的に行なうことが可能というわけだ。

このように数々の新機能を追加した「smartSQUARE」だが、従来から定評のある信頼性の高さなども高いレベルを実現している。ユーザーのサーバーは、耐震、防火対策、無停電電源の採用、高性能な空調システムなどが採用された環境にホスティングされ、24時間365日有人監視、最新のセキュリティシステムによって運営されている。企業や顧客の大切な情報を扱うことを考えると、このような高い信頼性を備えている点は大きなメリットだと言える。

サービスタイプは、共有サーバータイプと専用サーバータイプが用意されており、それぞれ利用可能なメールアカウント数やサーバーを接続する回線速度などによって、異なる利用料金が設定されている。しかし、もっとも低価格なタイプで月額3,000円からと非常にリーズナブルな設定になっている。「smartSQUARE」は機能、信頼性、コストと、どの点を取っても高いレベルにあるサービスとさえいえる。

基本サービス料金表

サービス名	メールアカウント数	コネクティビティ	初期料金	月額料金	
共用サーバータイプ	スタンダードV	共用	5,000円	1	3,000円
				5	4,000円
				10	5,000円
	スタンダード プレミアV プレミアV		50,000円	3,500円	6,000円
				50,000円	5,000円
				40,000円	3,500円
専用サーバータイプ	無制限	150,000円	0.5Mbps専用	150,000円	
			1Mbps専用	200,000円	
			2Mbps専用	250,000円	
			3Mbps専用	300,000円	
			5Mbps専用	400,000円	
			10Mbps専用	500,000円	



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)